

Materials

自然素材について



木の話

木目は均一ではありません

1本の木の中で、木目が直線に近いいわゆる「本柂目」なのはほんの一部。枝が切り落とされた跡は「節」となって残ります。カンディハウスは、そうした特徴を個性として、自然な表情を持つ美しい家具に仕上げています。

環境の影響を受けます

直射日光や暖房の熱に当たると、その部分だけ日に焼けたり、乾いてささくれ立つことがあります。これは工業製品にはない自然素材の変化で、お手入れにより蘇らせることができます。

色も少しずつ違います

同じ樹種でも、1本ずつ色が異なります。さらに1本の中でも、外側と内側、上の方と下では違います。

時間とともに変化します

無垢の木は家具になってからも呼吸をしており、環境により変化します。無垢材のテーブルの場合、まれに反りや割れが起きることがありますが、メンテナンスをしながら使い続けることができます。

傷が付くことがあります

無垢材の家具が、強い衝撃を受けてへこんだり熱で焦げてしまった場合は、蒸気で膨らませたり表面を削って再塗装するなど、修理することができます。

木目について

ランダムマッチ

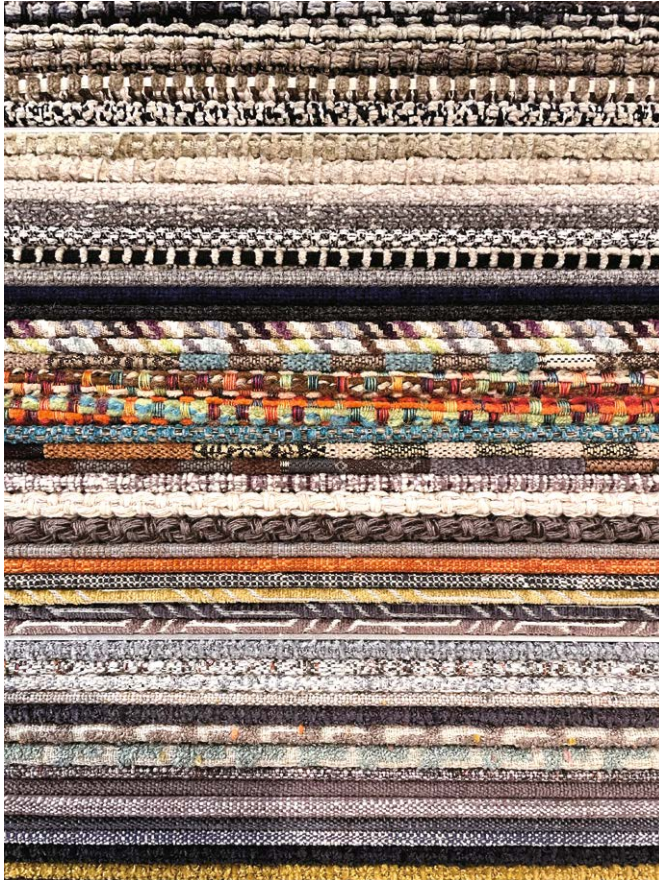
木目の異なる材料を不規則に並べて接合する手法。同じ木目が並ばないので個性的な表情となり、その合わせ方に職人のセンスと技術が要求されます。

ブックマッチ

本を開いたように木目を並べて接合する手法。2枚ごとに左右対称の木目となり、板目では木目がつながって、大きく動きのある表情となります。

スリップマッチ

材料を同じ木目の向きに並べて接合する手法。木目が繰り返されるので、均一に仕上がる柂目での使用が中心。大きな面をシンプルに美しく仕上げることができます。



布の話

天然素材ならではのよさ

張地やクッションには、さらりとした手触りのコットンや通気性に富んだリネン（麻）などの天然素材を多く採用しています。また再生繊維のレーヨンも、特有の光沢感とすぐれたデザイン性を持つファブリックとして積極的に取り入れてきました。このように上質な素材を厳選して組み合わせられることも、カンディハウスの強みです。

豊富なバリエーション

椅子やソファの張地は、飽きのこないベーシックなデザインを中心に、手触りや耐久性に配慮した布を取り揃えています。シンプルな印象ながら糸や織りには高い技術が使われており、上質感が漂います。木部の樹種、塗装色と組み合わせることで3つのスタイル「ノース ノーブル」「シンプル & ナチュラル」「アドバンスト クラシック」を表現することで、お客さまに張地の魅力と可能性を提案します。



革の話

革は風合いが命です

「革」は、原皮（動物の皮）をなめし処理したものを指します。その表面はやわらかく風合い豊かですが、「ナチュラルマーク」という、動物が受けた傷や皺も残っています。カンディハウスではその表面（銀面）をそのまま生かした「RK/BQ/MG/KS/KP/GR」の6種類の革を用意。また、「ナチュラルマーク」が目立たなくなるよう銀面に擦り加工を施し、均一に仕上げたコレクトレザー「MR」も揃えました。それぞれの革に適した塗装やシボ加工により、質感の違いやメンテナンスのしやすさなどの特長を持たせています。

塗料によって異なる風合い

革の塗装は大きく分けて「顔料（ピグメント）仕上げ」と「染料（アニリン）仕上げ」があります。顔料は革の表面に付着し、保護膜のような役割を果たすもの。一方の染料は革の繊維に浸透してなめらかな手触りを保ちます。

質感を大切に

原皮が持つ、成育上のさまざまな傷や皺を質感として生かした「スムーズ革」のほかに、カンディハウスでは「シボ（革の皺）加工」を施したものを用意しています。